



平成22年7月23日

各 位

会 社 名 株式会社ファーマフーズ  
代 表 者 名 代表取締役社長 金 武 祐  
コ ー ド 番 号 2 9 2 9 ( 東 証 マ ザ ー ズ )  
問 合 せ 先 総 務 部 部 長 堀 江 健 二  
T E L 0 7 5 - 3 9 4 - 8 6 0 0

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年9月11日に発表いたしました平成22年7月期（平成21年8月1日～平成22年7月31日）の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成22年7月期の業績予想の修正（平成21年8月1日～平成22年7月31日）

（金額単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	944	13	92	89	1,514円89銭
今回修正予想（B）	955	△67	13	10	170円21銭
増 減 額（B－A）	11	△80	△79	△79	－
増 減 率（％）	1.2	－	△85.9	△88.8	－
（ご参考） 平成21年7月実績	734	△264	△199	△207	△3,533円22銭

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

#### 2. 修正の理由

売上高については、葉酸たまご事業において、国内では堅調に推移し、海外では好調であったこと、また、LSI（Life Science Information）事業において、受託試験ビジネスを積極的に展開した結果、受注が増加したこと等から予想値を上回る見込みとなりました。一方、今期の課題の一つでありました、生産技術開発によって生産効率の改善を図ることによる利益率の増加を計画しておりましたが、この計画が遅れていること、また、当初予算に比べ、売上構成割合が葉酸たまご事業等の他の機能性素材に比べ、収益性の低いものに偏ったこと等により、売上原価が増加しました。このような状況を鑑み、業績予想で掲げた利益を確保すべく、LSI事業の受注に向けて更なる営業活動を続けておりましたが、案件の一部が、先方の都合により保留となったこと等により、営業利益、経常利益及び当期純利益については、予想を下回る見込みとなりました。

### 3. 今後の展開と対応策

当社は前事業年度において純損失207百万円を計上しましたが、今期においては純利益10百万円が見込まれます。

当社は、平成23年7月期においては、今期の実績を基に、更なる増収増益を図るべく、以下のとおり対応してまいります。

- (1) 海外営業について、中国市場においては、今年度に引き続き、昨年「新資源食品」の認可を取得した、ボーンペップ™ 及びファーマギャバ™ の営業展開を最重要課題として、その拡大を図ってまいります。これに加えて、中国で葉酸たまご事業の営業活動も新たにすすめている状況です。また、韓国など、他のアジア市場においても、ファーマバイオミックス™ やオボプロン™ などの販売が好調であることから、来期以降も引き続き順調に推移すべく、営業展開を図ってまいります。北米市場においては、ファーマギャバ™ の営業を積極的に行った結果、サプリメント用途として、ナチュラルファクターズ社の7つの新製品に採用される等、新たな動きが出てきており、来期以降の業績にも貢献すると目論んでおります。

国内営業については、経済環境に影響を受けない強固な営業基盤を形成すべく、業種・業界の見直しをすすめ、また、製品ラインナップの拡充による売上の安定化を図っております。

- (2) 開発面については、遅れております各製品毎の生産技術開発を引き続き行い、生産効率の改善を図ることで、生産コストの削減による利益率の改善とコスト競争力の向上による営業拡大を図ってまいります。

また、新たに開発を進めておりました機能性素材について、経営資源を集中し、早期の事業化を図り、業績に大きく貢献するよう開発をすすめてまいります。

以上